ＪＴＢ　広域代表からのメッセージ

誘客・交流拡大に貢献

３年余りに及んだコロナ禍を乗り越え、旅行需要の回復が進む中、観光を通じた持続可能な地域づくりに改めて期待が高まっている。ＪＴＢの広域代表ら10人に2023年度の取り組みなどを語っていただいた。

JTB旅ホ連特集

執行役員　ツーリズム事業本部
仕入商品事業部長
藤原　卓行

法人・個人・仕入営業連携のさらなる進化

私ども仕入商品部門はＯｎｅ　ＪＴＢグループの「扇の要」として、あらゆる商品流通と販売を支える役割を担っている。今年度は、「連携・融合」「共創」をテーマに「足元と未来」をスローガンとして両輪で取り組んでいく。全国ＤＭＣ個所への仕入移管は3年目を迎え、34個所（37府県）へ拡大させた。お客さまを起点に価値ある「仕入」素材を「商品」化し、最適な「流通」「販促」により顧客の最適購買につなげ、競争優位性が高い「仕入・商品・スキーム」を創出することで、地域誘客・地域の持続的発展に貢献していく。

宿泊増売の取り組みについては弊社の強みを存分に生かし、ＭＩＣＥを含む一般団体と訪日インバウンドの完全復活に全力を注ぐ。加えて、完全に弊社主力商品となったダイナミックパッケージ「ＪＴＢ　ＭｙＳＴＹＬＥ」のさらなる進化を魅力的な旅ナカコンテンツの充実を中心に追求していく。

着地コンテンツ開発にあたっては、旅ホ連会員の皆さまとの連携を含め、旅の過ごし方の独自性の追求や高付加価値コンテンツの開発を目指す。加えて、全社キャンペーンである「日本の旬　北海道」をはじめとする取り組みを契機とし、ＪＴＢ版ニューツーリズムの確立の足掛かりとしていきたい。また、市場のニーズへの変化に対応し、サステナブルツーリズム実現に向け、各地のサステナブルな取り組みや素材の情報取得とその発信、ＳＤＧｓに資するカーボンニュートラル商品の開発も拡大させていきたい。

宿泊販売やコンテンツ開発以外に関しても、観光業界におけるコロナ禍後のさまざまな課題解決のために「ＪＴＢデータコネクトＨＵＢ」や「Ｋｏｔｏｚｎａ　Ｉｎ－ｒｏｏｍ」など事業パートナーの皆さまの生産性向上やＤＸに貢献するソリューションメニューの提案も積極的に行っていく。

商品力強化および商品流通を拡大させＪＴＢグループ総チャネルでの宿泊増売とさまざまなソリューションに磨きをかけ、お客さまや事業パートナーの皆さま、地域社会から必要とされるべく、全国各エリアで唯一無二の存在を目指していく。

北海道
「日本の旬」を成功に導く
ツーリズム事業本部　北海道エリア広域代表
兼北海道事業部長　阿部　晃士

今年度上期は全社キャンペーン「日本の旬　北海道」が開催されている。日本の旬のコンセプトは「日本の魅力の再発見を」テーマに、各地の『旬』の魅力を掘り起こし、旅行を通じて国内観光地活性化に貢献する」であり、あるべき姿は「開催年のみの取り組みにとどまらず、観光客の永続的な送客を可能にする仕組みを構築する」とされている。そんな中、「日本の旬　北海道」の主たるテーマを「アドベンチャー・トラベル（ＡＴ）＆サステナブル推進」としたことから、昨年1年間、北海道事業部と北海道仕入販売部は、連携してコンテンツ開発部会を立ち上げ、ＡＴコンテンツの発掘・磨き上げ・商品化に取り組んできた。昨年、道内各地の自治体や観光協会等では、今年9月に北海道で開催されるＡＴＷＳ（アドベンチャー・トラベル・ワールドサミット）を見据え、着地型商品開発に関わるさまざまな事業を公募していたことから、北海道事業部より部内にインバウンド専門セクションを再発足した。ＪＴＢ在外支店とし、北海道仕入販売部が商品化を執り行うという、まさに法個仕連携の実践に取り組んだ。「日本の旬」を機に、地域への永続的な送客を可能にする商品開発に取り組めたことと合わせ、法個仕連携のあるべき姿が構築されたことも大きい。

北海道事業部は今年度商品開発に関わるさまざまな事業を公募していたことから、北海道事業部より部内にインバウンド専門セクションを再発足した。ＪＴＢ在外支店とん引する1年としたい。

連携し、同支店が取り扱うアウトバウンドの優良顧客を主たるターゲットとして北海道への誘客促進を図る。ＡＴはインバウンド顧客がターゲットとなることから、前述の新セクションが旗振り役となり、全国同様に北海道でも急速に回復しているインバウンドマーケットに対し北海道におけるＡＴの魅力訴求を行い、道内各地への送客につなげたい。「日本の旬　北海道」とＡＴＷＳ。今年度は1年を通してまさに「北海道祭り」である。法個仕連携をさらに活発化させ、皆さまの協力を仰ぎながら北海道が全国をけん引する1年としたい。

東日本
地域のマネジメントに貢献
常務執行役員 ツーリズム事業本部副本部長
全社広域営業推進担当
兼東日本エリア広域代表　檜垣　克己

国内外の多様なニーズに応える豊富な観光資源を有していることを地域が再認識し、エリア全体で展開することが持続可能な観光戦略となる。生産性効率向上に向けたツーリズム産業のトランスフォーメーションに向けてＪＴＢが果たすべき役割、そして各エリア軸で異なる課題において事業戦略を横串にした推進をしていく。

東日本エリアにおける持続可能な観光戦略に欠かせない前提としては、世界で類を見ない最大発着マーケットである東京を含めた首都圏の特色にある。まずは短期的視点では若年層を中心とした転入超過による人口増等を背景に、エリア戦略において発着連動の観点で地域交流のマーケティング上でも各地域に貢献していくことはこれまで同様に重要である。特に北関東、南関東エリアにおいては圧倒的に首都圏からのお客さまが多く、マーケットインでのコンテンツの磨き上げが各地域誘客につながり、そして宿泊増売にもつながることを示してる。

また、最大の観光地でもある東京を含めた首都圏そのものの魅力を高めていくこと、そして首都圏から一歩足を延ばした関東地域に拡大していくことが重要である。昨年の「日本の旬　東京横浜」においてインバウンド含め首都圏に訪れるお客さまへのコンテンツは拡充されたが、さらなる磨き上げと開発を持続的に推進していく。関東地域では日光ＭａａＳ、山梨ＭａａＳと新たな仕組み創りに挑戦してきたが、地域のマーケティング＆マネジメントに貢献できるバリューチェーン全体の構築を目指していく。

そして、日本の上場企業の6割以上が東京に本社を構えていることから、企業×地域の考え方を実践に移し、相互の価値向上に貢献する「つなぐ」役割を推進していくことが肝要である。47都道府県に拠点があるＪＴＢならではの強みが発揮できる。産官学に接点があり、オペレーションも手掛け、ソリューション提案もする稀有な存在感を大いに発揮したい。

中部
広域ルートで誘客強化
執行役員 ツーリズム事業本部
中部エリア広域代表　内海　勝仁

復している。当エリアでは、年初から静岡・愛知を中心とした大河ドラマの舞台となっており、ドラマ館をはじめ周辺観光も盛況であり、今秋には「ジブリパーク」第2期オープンと観光関連の地域話題が続く。この好機を生かし、地域の歴史・文化の魅力発信やジブリパークを核とする広域連携と開発等に果敢に挑戦し、一過性にならない未来につながる観光へとつなげていきたい。

2024年春には北陸新幹線敦賀延伸となるが、この時期と同じくして富山県と長野県を結ぶ新たな観光ルートが誕生する。「黒部宇奈月キャニオンルート」だ。大自然に囲まれた立山連峰の壮大な電源開発事業の歴史と現在が観光ルートとして一般開放される。これは産業観光を含めた唯一無二のコンテンツとなることは言うまでもない。既存の「立山黒部アルペンルート」と合わせ、世界へ発信していきたい。この他、北陸には「豊かな自然」「歴史」「文化」「温泉」をはじめ、「おもてなしの心」など人の魅力にもあふれている。新たな魅力の提供と「幸せの御裾分け」に努めたい。

またアフターコロナにおいては、急伸しているインバウンド強化も喫緊のテーマだ。これまで訪日客は「ゴールデンルート」がメインであり、中部エリアは通過点となりがちだったが、2025年大阪・関西万博を見据えた既存インフラ活用として、サミット開催地で「三重ルート」の新提案の他、東京・大阪間を北陸経由で大きな虹のアーチを描く「レインボールート」、名古屋から岐阜・北陸へ昇龍を描く「ドラゴンルート」、「北陸・飛騨・信州と横断する「三ツ星街道」があり、いずれも訪日客に魅力ある観光素材であふれている。今後は中部圏を縦横無尽に貫く、この「ルート」を絡めた広域観光を提案しながら、面を膨らましていく戦略で中部圏全体の誘客活動を強化したい。

感染縮小と各種緩和に伴い、中部エリアにおいても旅行需要が大きく回復している。当エリアでは年初から静岡・愛知を中心とした大河ドラマの舞台となっており、ドラマ館をはじめ周辺観光も盛況であり、今秋には「ジブリパーク」第2期オープンと観光関連の地域話題が続く。この好機を生かし、地域の歴史・文化の魅力発信やジブリパークを核とする広域連携と開発等に果敢に挑戦し、一過性にならない未来につながる観光へとつなげていきたい。

2024年春には北陸新幹線敦賀延伸となるが、この時期と同じくして富山県と長野県を結ぶ新たな観光ルートが誕生する。「黒部宇奈月キャニオンルート」だ。大自然に囲まれた立山連峰の壮大な電源開発事業の歴史と現在が観光ルートとして一般開放される。これは産業観光を含めた唯一無二のコンテンツとなることは言うまでもない。既存の「立山黒部アルペンルート」と合わせ、世界へ発信していきたい。この他、北陸には「豊かな自然」「歴史」「文化」「温泉」あり伊勢志摩を絡めた「三重ルート」の新提案の他、東京・大阪間を北陸経由で大きな虹のアーチを描く「レインボールート」、名古屋から岐阜・北陸へ昇龍を描く「ドラゴンルート」、「北陸・飛騨・信州と横断する「三ツ星街道」があり、いずれも訪日客に魅力ある観光素材であふれている。今後は中部圏を縦横無尽に貫く、この「ルート」を絡めた広域観光を提案しながら、面を膨らましていく戦略で中部圏全体の誘客活動を強化したい。

東北
交流拡大を加速化
ツーリズム事業本部　東北エリア広域代表
兼仙台支店長　増子　敦

東北の中央には縦に日本一長い奥羽山脈があり、東北各地に伸びる新幹線から豊かな自然を眺めることができる。この季節には、新緑が芽吹き、その美しさは世界に誇れる。これから夏、紅葉、雪への行楽シーズンの交流拡大が楽しみになる。6月には東日本大震災から続けてきた六魂祭が青森で開催、夏には各地の伝統的な祭りやイベントの開催により東北各地のにぎわいが戻ってくる。

新型コロナ5類移行後、ＪＲやレンタカーを利用し、広域な旅を満喫している訪日外国人が目立ってきている。この春、2年10カ月ぶりに仙台空港へ国際定期便として台北便やソウル便が就航したことや、5月の花巻空港の台北便も弾みになっている。

コロナ禍では観光誘致につなげようと、「ふるさと納税」など多様な取り組みを進めてきた自治体も増えてきた。伝統的なモノづくりが生み出した地域の生活を象徴する工芸品文化や食文化に魅了され、コトづくりの可能性を感じる。モノもコトも歴史や文化の育みにより、地域単位で違った魅力がある。アグリワーケーション就農体験もその一例だ。さくらんぼ狩りなど人気が高い。「みちのく文化・観光を体験する」切り口で、再編集すれば、成熟した人々のコト消費を満たせるのだ。

ニューヨークタイムズで「今年行くべき52カ所」に選ばれた盛岡市も国内外の観光客でにぎわいを見せ、普段の暮らしの文化の高さが着目されている。年を重ねるとともに地域も多様化するが、地域にあったライフスタイルが提供できれば、価値観を同じくする人が集い、地域も活性化するのだと思う。

東北各地に点在する歴史、文化、食農、温泉など魅力の発信に磨きをかけ、誘客プロモーションとして、多言語やＤＸの仕掛けが急がれる。利便性を生かした広域周遊ドライブルートの発信など、県境を越えた東北域内の滞在時間拡大やロングステイの実現に力を注いでいく。

2025年の大阪万博や2030年の北海道新幹線延伸を見据えた交流拡大へ、東北広域の発着取り組みを強めていきたい。旅ホ連会員や自治体の方々、東北観光推進機構や東北経済連合会、観光誘致協議会との会話を重ね、持続可能な観光地「東北」へ、足元の交流の拡大を加速化させる。

淡路島
洲本温泉
淡路インターナショナルホテル
ザ・サンプラザ
令和５年夏展望大浴場とフィンランドサウナ新装！！
〒656-0023　兵庫県洲本市小路谷1279-13
TEL：0799-23-1212　FAX：0799-22-5823
https://www.the-sunplaza.co.jp/　E-Mail：info@the-sunplaza.co.jp

天領日田の奥座敷、奥日田温泉にある梅づくしの宿
2022年 人気温泉旅館ホテル 250選入選

梅の名産地でもある奥日田温泉は、
雄大な響溪谷に抱かれた静かな郷。
この地にあるうめひびきは、
梅の健やかで美しい食と装飾で室内を満たした、
まさに「梅づくし温泉」と呼ばれる宿。
5つ星の宿

奥日田温泉
うめひびき
Okubita Onsen UMEHIBIKI
JR九州グループ / JTB旅ホ連会員
〒877-0201
大分県日田市大山町西大山4587
TEL：0973 - 52 - 3700
https://www.umehibiki.jp/

世界遺産
「明治日本の産業革命遺産」

萩城下町

松下村塾

恵美須ヶ鼻造船所跡

萩反射炉
世界遺産「萩城下町」の宿
萩城三の丸　北門屋敷
〒758－0057 山口県萩市掘内 210-12
TEL0838－22－7521　FAX0838－25－8144
http://www.hokumon.co.jp
毛利三六万石の城下町、長州・萩。
萩城からほど近い、かつて城を守る
重臣たちが居を構えた萩城三の丸、
毛利屋敷跡に、北門屋敷はあります。
江戸時代からほとんど変わらない町割りと、
維新前夜の面影が色濃く残る場所。
武家屋敷の風格と凛とした空気に、
往時の息づかいが感じられます。
国の重要伝統的建造物群保存地区、
そして世界遺産「萩城下町・旧上級武家地」
であるこの場所に許された、唯一の旅館。
ようこそ北門屋敷へ。

当館表門前にも石碑がございます。

満天の星空と木の香りに包まれる、贅沢な時間を

木曽ヒノキ・津軽ヒバの浴槽

デッキチェアから星空を眺められる
露天風呂付き客室
全面リニューアル

露天風呂に専用アメニティを用意

料理長特選会席を提供
信州昼神温泉郷 昼神グランドホテル 天心
南信州昼神温泉郷 昼神グランドホテル 天心
〒395-0304 長野県下伊那郡阿智村智里 331-5
TEL.0265-43-3434
（電話受付時間 9:00 ～ 20:00）
FAX.0265-43-3435
https://hirugami-tenshin.jp/